



高知盲新聞



発行所
高知県立盲学校
高知市大膳町 6-32
TEL 088-823-8721
mo-s@kochinet.ed.jp
<http://www.kochi-net.ed.jp/>

令和三年度も、どうぞよろしくお願ひいたします

いつもお世話になっております。盲学校です。今年度も、地域の皆様には盲学校の活動を理解していただくための取組を進めるとともに、定期的に学校の様子をお伝えしてまいりますのでよろしくお願ひいたします。



ご挨拶
校長 八木千晶

地域・学校関係者の皆様には日頃から本校の教育活動に對しまして、ご理解、ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。校長四年目となりました八木です。今年度も「笑顔」「夢」「感動」あふれる学校を目指し、取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

令和三年度は、小学部二名、中学部二名、高等部本科普通科三名が入学をし、総勢二十三名の幼児児童生徒でスタートしました。教職員は、人事異動に伴い四名が退職、七名の教職員が他校等への異動となりました。新たに十三名の教職員が着任しました。

さて、一学期に少し落ち着きが見られていた新型コロナウイルス感染症ですが、一学期間近になり、全国的な感染症爆発の中、高知県がまん延防止等重点措置の適用を受けるとともに、高知県における新型コロナウイルス感染症の対応における目安ステージが「非常事態（紫）」に引き上げられました。

このような中、学校においては、さらに感染症対策を徹底し、まずは幼児児童生徒の皆さんが安心して登校し学習活動ができるよう、そして、コロナ禍においてもできること、さらにコロナ禍

本校の目指す幼児児童生徒像

本校では学校教育目標として、「夢に向かって『自らまなび』『社会とつながり』『たくましくあゆむ』生きる力を育てる教育」に取り組んでまいります。

目指すのは、

- 【知】「主体的、意欲的に、学び続けることができる」
- 【徳】「周りの仲間とのつながりを大切に、社会参加できる」
- 【体】「自ら障害に向き合い、自己実現に向けて積極的に行動できる」幼児児童生徒です。

目指す幼児児童生徒の育成に向け、各学部、寄宿舎において、それぞれ目標を設定し、幼児児童生徒一人一人の目標達成を目指し、日々の授業や行事等、学校生活全体を通して、「生きる力」を育てていきます。学校の教育活動に對しまして、「理解、ご協力をよろしくお願ひいたします。」

県内唯一の視覚障害教育を行う学校として、視覚障害教育の専門性を発揮し、生きる力を育む確かな教育を推進する学校を目指し、「チーム盲学校、百年目に向けて着実に歩みを進めよう！高めよう専門性、広げよう地域・社会に」を合言葉に、今年度はキーワードを「高知盲『GIGAスクール元年』&『魅力発信！』」とし、取組を進めています。盲学校の教育を必要としている皆さんに、盲学校の情報が適切に届くよう頑張りたいと思います。

令和二年度卒業生の進路状況

令和二年度は、高等部本科普通科一名、高等部専攻科理療科一名が学び舎を巣立っていきました。

高等部本科普通科の生徒は、筑波技術大学保健科学部保健学科に入学しました。

高等部本科保健療科の生徒は国家試験に合格し訪問マッサージの会社にあん摩・マッサージ・指圧師として就職しました。

コロナ禍においても、それぞれの場ですっかりと頑張っています。

一学期の様子を学校ホームページより紹介します

「わくわく・ドキドキ盲学校の寄宿舎スタート！」

四月からいよいよ寄宿舎の新年度がスタートしました！

下校後は、みんな疲れた様子で帰って来て、「ふうふう」と一息つく様子も。

新年度が始まってまだ二か月ですが、みんなとつても頑張っています。毎日お疲れ様

帰って来てやるべき事を済ませた後は、先生とおしゃべりしたり、テレビや音楽を聴いてそれぞれでゆったりとした時間を過ごします。この日のおやつは、なんと！みんな大好き、いちごのタルトでした。幸せそうに食べるみんなを見て、先生たちも幸せな気持ちになります。新型コロナウイルスが落ちていたら、みんなどこかにお出掛けしようね！

この一年間、新しい仲間・職員と共にみんな助け合いながら、楽しく生活を送っていききたいと思えます。



「ドキドキワクワク盲学校へようこそ！」Ver.2の作成開始！

中学部・高等部の美術の三名の学習グループで、本校の今年度のキーワード「盲学校の魅力発信！」という事で、盲学校を題材にした作品の制作に取り組んでいます。

一昨作成した作品は、紙とあそぼう作品展に出品しましたが、今回も出品を目指しているそうです。今日の授業では、三名の生徒がそれぞれ担当する教員や、ヘレンケラー像、本校マスコットのモー君の土台を新聞紙で作っていました。

どんな作品、どんな盲学校が出来上がるのか、とても楽しみです。



「校内弁論大会」

中国・四国地区盲学校弁論大会への予選を兼ねて、五月十二日に校内弁論大会を実施しました。

弁士は、中学部から高等部専攻科までの十一名、制限時間は七分、演題は自由、各自が設定した演題について、それぞれの思いを発表しました。

「将来の夢」、「増え続ける数字」、「コロナ」、「学校に來ませんか」、「運のいい僕の幸せ」などの演題で熱弁が繰り広げられ、弁論が終わると会場の体育館内に大きな拍手の音が広がっていました。

厳正な審査の結果、「今までの経験とこれからの期待」という演題で発表した高等部本科普通科一年生安岡未来さんが、最優秀賞となりました。おめでとうございます。

今年度の中国・四国地区盲学校弁論

大会は山口県で開催予定でしたが、現地へ集合しての開催は難しく、オンラインでの開催に決定しています。中国・四国地区でも上位入賞を目指して頑張ってもらいたいです。

※六月十一日に開催された中国四国地盲学校弁論大会で、安岡さんは優秀賞を受賞しました。



「運動会を実施しました」

六月五日（土）に、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底しながら、午前中に幼稚部・小学部、午後には中学部・高等部の運動会を実施しました。残念ながら無観客での運動会でしたが、日頃の学習の成果や、一人一人の目標に向けての頑張りや多くの場面で見られる幼児児童生徒の笑顔や達成感、満足感一杯の表情が印象的でした。





「高知県産の食材を
たくさん使った給食！」

六月十八日(金)の給食は、四万十鳥のカレー、さつま芋サラダ、手作りゆずゼリー、牛乳の献立で、高知県産の野菜や、四万十鳥、ゆず果汁と、高知県産の食材がたくさん使われていました。前日のお昼休みには、給食委員会の生徒から献立についての放送があり、みんな、とても楽しみにしていたようで、食堂には「美味しい！」の笑顔が広がっていました。

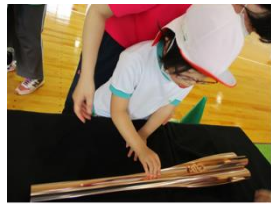


「オリンピック・パラリンピックの学習」

本校では、昨年からのオリンピック・パラリンピックについての学習に取り組んでいます。

その取組の一つとして、先日、高知県文化スポーツ部スポーツ課の方にオリンピック・パラリンピックの聖火リレーに使われる実物のトーチを持ってきていただき、近くで見たり、実際に触ったりする学習を小学部で行いました。実物に触れるとあって、子どもたちも興味津々！全体の大きさを把握してから、細かい形を理解したり、実際に持ってみて重さを体感したりしました。パラリンピックのトーチには、点字(英語)で「勇氣」「強い意志」など四つの言葉入っており、実際に触って読んで確認する児童もいました。

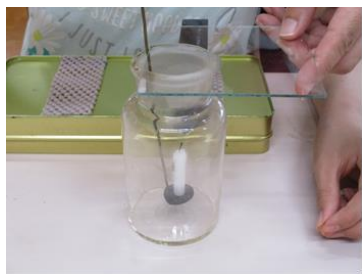
休み時間には、他の学部の生徒も参加し、見えない、見えにくい子どもたちにとっては、とても貴重な経験となりました。



「小学部理科の授業」

理科室で小学部六年生の児童が、「物の燃え方と空気」の学習を行っています。

全盲のお子さんの授業で、集気びんの中の石灰水の色の変化の有無を感光器の音の変化で知り、物を燃やす前後の気体の変化について調べていました。じっくり実験に取り組む、ロウソクの火の変化を「消えた」と、自分で気づき発言したり、実験からわかったことを自分の言葉で表現したりする学習に意欲的に取り組んでいました。



「幼稚部の制作活動」

幼稚部の教室では、楽しそうに花火の歌を歌いながら、制作活動をしていました。手のひらに、筆で上手に絵の具を

塗って、紙に手形を押ししたり、筆でトン色を付けたたり、楽しんでいました。出来上がった作品は、早速、廊下の掲示板に飾られていました。



「一学期終業式を行いました」

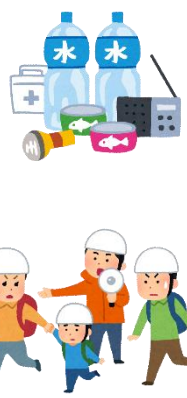
七月十九日(月)は、一学期の終業式でした。例年であれば、体育館に全員が集合して行いますが、今回は、コロナ対策と熱中症予防のため、各教室等で各自のタブレット端末を使用して、オンラインリモートで実施しました。



「避難所開設訓練を実施しました」

七月二十七日に、高知市の防災担当者の方二名と地域の方においでいただき、避難所開設訓練を実施しました。本校は、高知市の福祉避難所に指定されており、発災時にはその役割を果たす

ことになっています。今回は、通常の避難所の開設についての研修を行うことにより、幼児児童生徒が学校にいる時間帯に発災した時の避難体制や、地域での活動にいかすことを目的として実施しました。



「第6回高知県特別支援学校
技能検定」

八月三日(火)、第六回高知県特別支援学校技能検定の清掃部門・接客部門が開催されました。本校からも三名の生徒が、清掃部門の「机拭き」に、昨年度より上の級を目指し参加しました。とても緊張している様子が見られましたが、日頃の学習活動の中で取り組んできた練習の成果を十分に発揮することができていました。

先日、各学校で開催された情報部門にも、本校から五名の生徒が参加しています。



「第三十五回紙とあそぼう作品展」

紙とあそぼう作品展に、本校幼稚部・小学部から「なかまに入れてー!」、中学部・高等部から「笑顔、夢、感動あふれる盲学校!!」の二つの作品を出展しており、どちらの作品も審査委員長奨励賞をいただきました。いの町紙の博物館には本校からの二作品も含め、出品百三十一一点全作品が展示されています。

本校理療科について

本校高等部には職業科として【保健理療科】高等学校卒業とあん摩・マッサージ・指圧師の国家試験受験資格を取得【専攻科理療科】あん摩・マッサージ・指圧師、はり師・きゆう師の国家試験受験資格を取得できる二つの学科があります。どちらも修業期間は三年間で、授業料は必要ありません。遠方のため通学が困難な方が利用できる寄宿舎もあります。

現在、理療科では二十歳代から六十歳代の方が、国家試験合格を目指して、知識や技術の習得に日々励んでいます。また、全盲や弱視の視覚障害がある理療科の教員が、学業面だけではなく日常生活等も含めて様々な面で、アドバイスをしたり相談にのったりすることが出来ます。

現代社会において、身体と心を癒すことができる、身体と心療師という職業が果たす役割は、益々重要になってくると考えます。本校の卒業生も、高知県内や全国各地で活躍しています。

入学には年齢制限はありません。で、視力や視野の障害等で見えにくさがあり、将来の生活に不安を感じていたり、現在の仕事を継続することが難しくなったりするなどの心配がある方がいらっしやいましたら、ぜひ一度、盲学校にご相談ください。ご連絡をお待ちしています。

